



1920年（大正9）発行の『神戸市地図 実地調査』（神戸市立中央図書館蔵）。通川公園から鈴木商店との間には緑地の上を相生橋が架かり、そのもとには警察署もあった。鈴木商店の本店はこの年の末に海岸通に移転した。



新本社となった旧みかどホテルと隣地に建築された本社事務所（一般社団法人ジャパンアーカイブス提供）

焼け落ちた鈴木商店（一般社団法人ジャパンアーカイブス提供）



城山三郎
1927 - 2007

名古屋生まれ。1969年に『秘伝薬師城』で渡木実を卒業し、経済小説のジャンルを脱却。歴史小説なども得意とした。『黄金の落日』や『落日歌の』『男子の本懐』『百鬼たちの宴』など傑作された作品も多い。

鈴木商店焼き打ちを活写 城山三郎『鼠』



1920年（大正9）発行の『神戸市地図 実地調査』（神戸市立中央図書館蔵）。本誌載では鈴木商店と同じ会社の神戸新聞社も焼き打ちされた。

いを消滅させた鈴木商店が影を落す。このとき、大正9年（1920）8月12日、日本最大級の商社だった鈴木商店が焼き打ちに遭った。神戸駅の近く、堂町の通の西端にあった社員宅木社は一夜にして灰燼に帰した。米価高騰による米騒動の際に、新聞報道で買いよめの疑

いを消滅させた鈴木商店が影を落す。このとき、大正9年（1920）8月12日、日本最大級の商社だった鈴木商店が焼き打ちに遭った。神戸駅の近く、堂町の通の西端にあった社員宅木社は一夜にして灰燼に帰した。米価高騰による米騒動の際に、新聞報道で買いよめの疑

いを消滅させた鈴木商店が影を落す。このとき、大正9年（1920）8月12日、日本最大級の商社だった鈴木商店が焼き打ちに遭った。神戸駅の近く、堂町の通の西端にあった社員宅木社は一夜にして灰燼に帰した。米価高騰による米騒動の際に、新聞報道で買いよめの疑

いを消滅させた鈴木商店が影を落す。このとき、大正9年（1920）8月12日、日本最大級の商社だった鈴木商店が焼き打ちに遭った。神戸駅の近く、堂町の通の西端にあった社員宅木社は一夜にして灰燼に帰した。米価高騰による米騒動の際に、新聞報道で買いよめの疑